

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
<p>ゆたかな心 たしかな学力 たかくらの子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考える子ども ・助け合う子ども ・やりぬく子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつと返事の定着と「四つのだいじ」を核とした心の教育の充実を図る。 ・学習意欲を高める工夫と家庭学習の習慣化を図るとともに、学習の進め方や指導方法の系統的・発展的なパターン化を行い、学力向上を図る。 ・運動量の確保と充実、季節に応じた体力づくりを推進し、体力向上を図る。 ・家庭や地域と連携し、ニーズに基づいた教育活動を推進する。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国</p> <p>国語A・国語Bともに県平均と比べると、かなり高い。 「文章の全体的な特徴を捉えること」については、力を発揮できるようになった。 国語の「わかったことを的確に書くこと」や「話す・聞く」の能力には課題がある。 算数A・算数Bともに県平均を上回っている。 「面積の求め方」の問題については、力を発揮できるようになった。 「小数や()のある計算」や「数量や図形についての技能」には課題がある。</p> <p>県</p> <p>理科はすべての項目で、正答率が県平均より高い。 社会と算数は、ほぼすべての項目で年々正答率が上がり、県平均との差が縮まってきている。 国語の正答率は県平均と比べると下回っている。 国語では、「言語についての知識・理解」などは向上しているが、「文章の記述」や「考えをまとめる」ことには課題がある。 算数では、「数量や図形についての技能」などは向上しているが、「割合の説明問題」には課題がある。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>全国</p> <p>地域の行事への参加姿勢は県平均より高い。 読書時間や図書室などの利用は県平均をやや上回る。 テレビやゲームなどの時間は、県平均よりかなり高い傾向にある。 家庭学習時間が少なく、予習、復習等に取り組んでいる割合は低い。 自己肯定感が低い傾向にある。</p> <p>県</p> <p>地域の行事に参加するなど、地域とのつながりは高い傾向にある。 困っている人を進んで助ける、人の役に立つ人間になる、挨拶をする等は県平均より高い傾向にある。 テレビやゲームなどの時間は、県平均よりかなり高い傾向にある。 自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることを難しいと感じている割合は県平均よりかなり高い。 予習、復習、苦手の教科の学習に取り組んでいる割合は低い。</p>

成果と課題	課題に対応した改善方法
<p>全校的に最後まであきらめずに取り組む姿勢の積み重ねがあった。(授業、集会、行事など) 落ち着いて学習する授業の規律が定着し、学習環境が整ってきている。(授業改善や学校集団作り) (全国学力テストでは)国語・算数について、それぞれ力が発揮され始めた。 (県学力テストでは)国語正答率は県平均を下回ってはいるが、ゆるやかに上昇してきている。 漢字学習の前倒しにより習熟期間が長くとれ定着につながっていると考えられる。 朝のモジュール学習の成果で集中力がついてきている。(月:漢字、火:計算、水:読書、木:計算、金:視写) 毎週金曜日の「視写」の取り組みにより、書くことへの抵抗感が少なくなってきた。 基礎基本を今以上に身につけていく必要がある。 自分の考えをまとめたり、目的に応じた文章を書いたりすることが大きな課題の一つである。 自分の良いところを感じることができる児童が少ない。 家庭学習の時間が不足気味で、予習や復習なども取り組みの割合が低い。</p>	<p>落ちついた学習環境を継続させ、基礎基本の定着を図る。 自分の考えを書く、話す(説明する力)、伝える(書いて説明する力)など、様々な自己表現の場を授業中だけでなく、学校生活の中に多く設定していく。 国語の音読大会(低・中・高)を、「聞く人を意識した自己表現の場」として行う。 低学年、中学年の時につまづきを発見し、可能な限り解消しておく。 新しい単元学習に入る前に前学年の同じ系統のテスト等を行い、実態をつかんで指導に生かしていく。 単元学習が終わっても関連した内容を(プリントなどを生かして)家庭学習で取り組み、定着を図る。 到達度確認テスト等を行い、確実な定着を図る。 児童理解に努めるとともに児童の居場所づくり等、自尊感情につながる取り組みを進める。 家庭の協力を得ながらテレビやゲームの時間を減らし家庭学習(予習・復習・読書など)の充実を図る。 数値はあくまでも全体の傾向なので、一人一人をしっかり見つけ、個々の子どもの伸びを大切にす。</p>

取組の検証方法及び検証時期	達成目標(数値目標)
<p>児童へのアンケート実施 校内研修学力部会のテスト(学期始・学期末)の検証結果を利用する。 家庭学習チャレンジシートの検証(各時期ごとに) 上記の結果を受けて、取り組みの見直しを図る。</p>	<p>(全国学力テストについて)国語・算数で出た結果を大切にし、次年度も児童の理解力や表現力が発揮されるようにする。 (県学力テストについて)社会、数学、理科は県平均を上回る。国語は県平均に近づける。 各教科ともに、「好き」、「よくわかる」と回答する児童・生徒の割合を今以上に県平均に近づける。 「自分にはよいところがあると思う」と回答する児童・生徒の割合を県平均以上にす。 テレビやゲームの時間を今より減らすとともに、家庭学習の時間を県平均に近づける。</p>